

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	絆KIDSおうじ		
○保護者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年2月10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年2月10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年1月5日		～ 2026年2月10日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月1日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	可能な限り、通所と訪問支援の併用をしており違う環境でのアセスメントがとりやすく児童を多角的に分析しやすい。また、事業所の支援が違う環境で汎化できているか評価しやすい。	・障害特性以外にも環境、知的な水準、身体機能など多角的な視点でアセスメントをとることを心掛けている。 ・事実に基づく行動→解釈の裏付け→評価の手順を厳守し、効果的な支援を提供できるようにしている。	現状の知識や技術に疑いをもちながら、支援者が常に学習できる仕組みを作っていく。
2	保育園との連携が取れており訪問日以外でも相談等の連絡を受け付けている。また、フィードバックの際は利用者だけでなく事業所の環境設定等の協議も行っている。	・相談受付の仕組化と並行し、定期的に面談を設けながら受動的にならないサービスに心掛けている。	今後も継続し支援者側からも情報共有を積極的に行い、関係機関の方や保護者との信頼関係を気づけるよう取り組んでいく。
3	事業所と関係機関の様子等を多角的に評価し、保護者に正確な内容と根拠に則した支援の方針をご提案できる。	関係機関の職員や保護者の視点から見える子どもの捉え方に対して解釈を言語化し、専門的な視点からどのような理由で子どもの行動が生まれているのか説明し、解釈や対応を統一しやすくなるようにしている。	事業所や保育園など環境によって変わる行動の原因を考察しながら、生活に必要なものなのか本人の障壁になっているのか分析して対応していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	契約の対象数がまだ少ないので、事業所の評価を正確に捉えることが難しい。	対象の母数が少なすぎると、良い点、改善点などの検証数が少なく、質の向上に繋がりにくい。契約者は急激に増えないので、現状で保護者や訪問施設との面談で要望や考えを聞きやすい対応を心掛けている。	通所支援だけでなく、訪問支援の希望や支援の必要があると判断できる利用者には面談等を通じて案内していく。
2	利用者数の兼ね合いで、訪問支援員の実践経験が積みづらい。	研修だけでは補えない、実践部分での経験や修正の学習回数が少なくなりやすく、支援員の実践的なスキルが積みにくいことから訪問支援以外での他施設への見学や関係機関ケース会議などに積極的に参加し実践の学習しやすいようにしている。	外部研修の活用や訪問支援に限らず、事業所内での支援にも参加しながら質を高めていけるよう取り組んでいく。
3	事業所の申請時間上、午前中のみでの訪問になってしまう。	希望があればなるべく多くの利用ができるように、訪問日時の調整を行っている。	年度や時期で定期的に訪問の枠を見直して、利用枠を最大限活用できるように取り組んでいく。